



沖縄戦の伝え方を考える 地域円卓会議

若手研究者・伝承者と考える、
沖縄戦を伝えるということはどういうことなのか？

実施報告書

日時： 2022年11月15日（火）13:00-15:40（受付開始12:30～）
場所： 八重瀬町中央公民館 大ホール（沖縄県島尻郡八重瀬町東風平1014）
主催： 関東学院中学校高等学校
協力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】 沖縄戦の伝え方を考える地域円卓会議



■日 時：2022年11月15日（火）13:00-15:40

■場 所：八重瀬町中央公民館 大ホール
（沖縄県島尻郡八重瀬町東風平 1014）

■着席者数：7名（論点提供者、司会、記録者含む）

■来場者数：36名（学生、NPO・市民団体等）

■主 催： 関東学院中学校高等学校

■協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供 大田 光 氏（平和ガイド・一中学徒隊資料展示室解説員・琉球大学大学院人文社会科学研究所）

若手研究者・伝承者と考える、 沖縄戦を伝えるということはどういうことなのか？

戦後 75 年がたち、沖縄戦の 1 次体験者が減少する中で、沖縄戦伝承の危機がメディアを賑わせています。今回は、私達は沖縄戦の何をどう伝えていくべきなのかを若手の研究者や伝え手とともに議論し、その課題を共有したいと考えています。当会議は、関東学院高校の修学旅行のプログラムとしても活用され、本土の高校生とともにこの課題を共有していきます。

センターメンバー



大田 光
平和ガイド
一中学徒隊資料展示室
解説員



平良 亮太
株式会社さびら
多様性ファシリテーター



南 信乃介
那覇市繫多川公民館
館長



石川 勇人
沖縄国際大学大学院
地域文化研究科



秋山 道宏
沖縄国際大学
総合文化学部
准教授

沖縄戦の伝え方を考える

2022.11.15 (火) ①

地域円卓会議

13:00 ~ 15:40

@八重瀬町中央公民館

120分

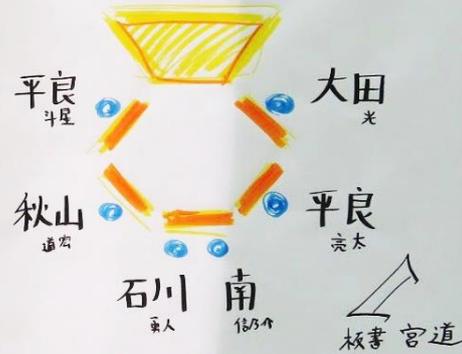
地域の困りごとを
社会課題として共有・共感する場 (インゼーリング)

若手研究者・伝承者

と考える、沖縄戦を

伝えるということは、

どういうことなのか？



主催 関東学院 中学校 高等学校
協力 公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO法人まちなが研究所わくわく

論点提供

大田光 さん

平和ガイド - 中学徒隊資料展示室解説員

- 沖縄戦を学び伝えてきた。
- 体験者がどう伝えてきたか。 (研究テーマ)
- ② (ひめゆり) 学徒以外の方々もいっしょけん命伝える活動をしてきた
- 県内外の高校生へ平和学習 (小・中も)
 - ひとりのしょう点をあてる生活、おこまれたことなど
- 1次体験者が減少
 - 2020年 戦後75年 コロナで取材できなこの70年で、半数亡くなった。
 - このゆいしんどかった。 (当事者に近すぎて)
 - でも、代弁していかないと。

体験者の方のお話し

長い間、語れなかった。

ニュアンス・表情 かわってくる

● 男子学徒 ⇒ 住民への加害者意識 日本軍で。 (話せない)

県外出身者ということで話しやすいこともあったかも

きいて、記録し、伝える

- むずかしい言葉使わずに
- 証言映像 / 写真 を使う (その方の)
- 戦前の学生 のすがた・遠い存在でない生活・あそび など

平良亮太 さん

株式会社さびら / 79

- がちでゆんたく (メイン 高校生 (修学旅行生))
- どう自分にひきつけて、もやもやを残すか
- 「戦争をつくってみましょう」 (うちめたい) 沖縄戦を伝える
- ちょっと上の沖縄のお兄さん という立場
- 接点 をどこにつくるか (日付)

体験者のお話しきいて、
2度と戦争おこさないために
伝えていく。

壕、を使った
学習のキカイ。

南信乃介 さん

NPO法人 15人井戸協会

③
あるく

あのあたりにごうがあつたはず
さがしてみよう。(検証企画)

公民館 まちづくり 文化財
歴史 資源 いかし 字記

沖縄戦が今のくらしに関係している
今のくらしを支え、豊かにしようとしている
方々。

高齢化 → 証言できなくなる
2ヶ月もって30分話すのはしんどい
学校での授業のあり方 (媒介者として)

「平和を希求する心」 (演劇) 自分ごととして
くりかえさないために

100年後みずえ、みとおすために、沖縄戦の伝

石川勇人 さん

沖縄国際大学大学院

地域の生徒たちと一緒に
避難経路・戦跡MAPをつくる

わ三者だから語れる、今だからきけること

戦争のつらさ - 地域のつらさ

沖縄戦のことだけでなく、
その人の人生の一部、戦後の苦勞
外に出さなくて、こわれることも。

地域に住む生徒と、
地域に住む戦争体験者と
「つなげる」というコンセプト

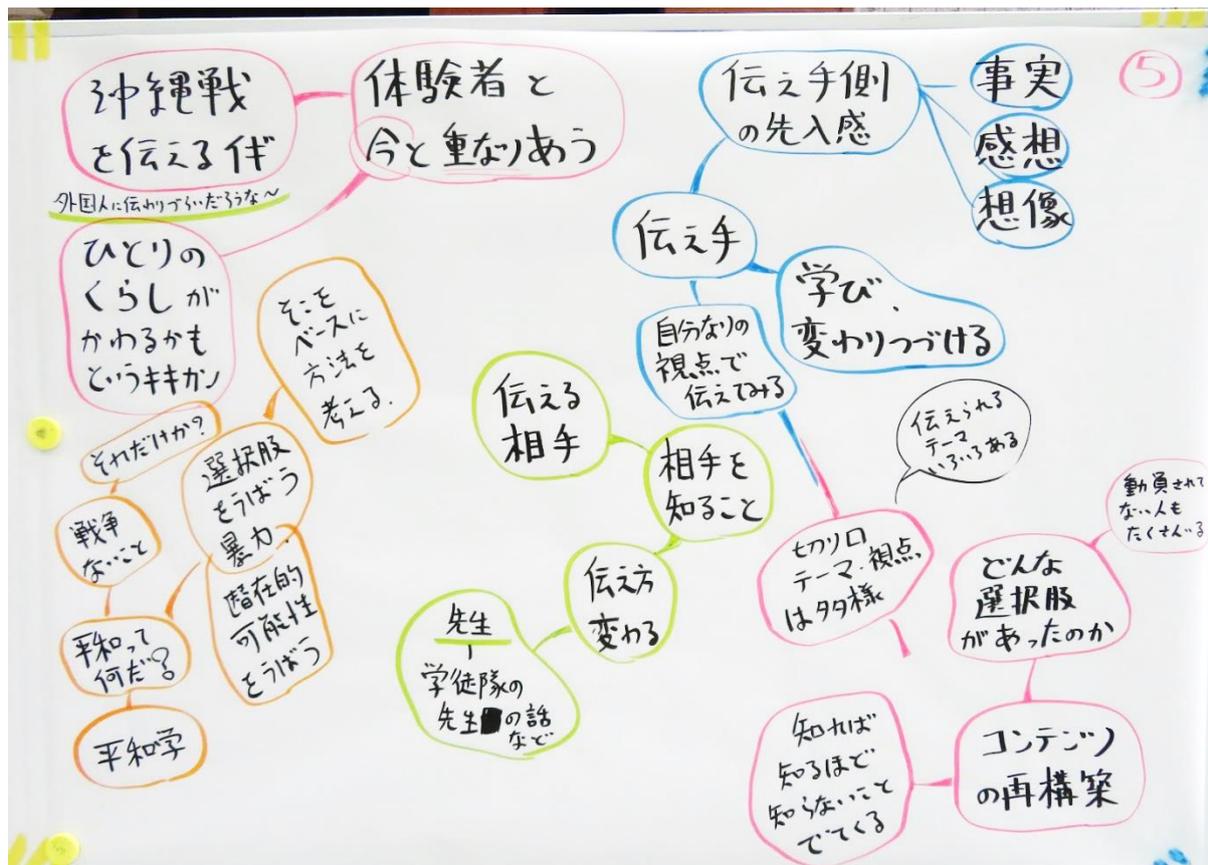
伝えたこと 知りたこと } キャンプ
がある

今ある
3-カラムを
つなげ、歴史に
していくか

秋山道宏 さん

④

- 沖縄の戦後史
戦前・戦争 ぬきにはできない
- 生活実感とむすびついて、
- 自分ごと - どうアックをかけるか
時代によってかわる
- 1つの展示のあり方も変化
二次体験者いなくなったときの
リソリティが問われている
受けとめる側も時代とともに変わる
- 地域から学ぶ視点 (津嘉山での
戦災調査)
- 近代沖縄の歴史 (小中)
が学ばれていない (21%)
不十分
- 体験者と被体験者の共同作業 (まず
やれる間
しかり)
- 人に着目・どう生きてきたのか・生きた歴史として



➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) 戦争体験を伝えるということは、「人生の選択肢を奪う事を防ぐ」ことが大前提にある。
- 2) 戦争については何回学んでも新しいことが出てくることから、戦争を学ぶ人、発信する人はどちらも学び続けていく。
- 3) 戦後 70 年以上、伝承に関して強い意識があり、たくさんのアーカイブや作業が残っている。今後はそれを再構築して、新しい時代の伝え方に活用していきける。

■参加者によるサブセッション

若手研究者・伝承者と考える、 沖縄戦を伝えるということはどういうことなのか？

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ 事前学習で勉強していた沖縄戦争と実際に訪れて、資料館や壕に行って戦争の話や写真に触れるのでは、感じるものが違った。
- ・ 今の議論の真剣さを感じた。

②

- ・ 戦争をしている(実働)、軍隊教育「戦争」という言葉が消えとくり返すのでは？宇宙に共通の敵ができれば地球はまとまる
- ・ 悲惨さしか分かってない。風化させない、体験者が伝えることを内省？する時間を増やす。戦争は必ずくり返される。
- ・ 当時の日本人は天皇への崇拜が強かった。このことが犠牲者を多くした理由では？今の日本人は思想がふわっとしている。
- ・ 国民には止められない？

③

- ・ ガマに入って体感する場から伝わるものがある。
- ・ トラウマのエピソードで石川さんからこれから知っていく努力が必要。
- ・ ガマや資料館に入った経験が他の人に伝えてみたい。
- ・ 外国の人に伝える難しさを聞いた。伝える相手を理解する大事。主張だけでなく。
- ・ 沖縄戦経験者は亡くなってしまう。後世に残す時に思惑に左右されないように。
- ・ 伝え手も先入観を持ちがち。大田さんも危機感を持っていたが重要。
- ・ TVで証言で伝えたいことと違ってしまう恐れもある。直接伝え手から聞くのがベスト。

④

- ・ 新たな方法を見つける
- ・ 証言者の映像には質問できない課題
- ・ 若者の視点での疑問点を採り入れる。

⑤

- ・ 戦争というのは沖縄だけではない。全国で被害がある。まずは身近で起きたことを調べる。
- ・ 戦争で苦しんだのは皆一緒なのに、死んだ仲間を見て、生き延びた自分に加害者意識。
- ・ 戦争はどこまでのことをいうのか。
- ・ 実際に伝承を体験すること。⇒体験難しい…など色々受けとる。
- ・ 言葉が難しくなる。
- ・ 近代を学ぶ。なぜ沖縄戦は起きたのか。実際に何が起きたのか。
- ・ 沖縄戦だけではなく自分の身近な

⑥

- ・ 映像製作の際、誰をターゲットとするのか。
- ・ 次の世代に伝える。つながるという感動。

⑦

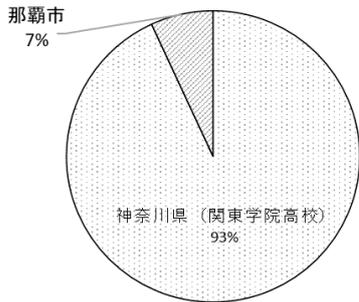
- ・ 1人1人それぞれの伝え方、伝える入口のちがいを。
- ・ 受け取る側の気持ちを考える←受け取る側の意識←伝える側が考えるストーリー←言葉を簡単にする。
- ・ ガイドさんの話で教科書などとは全くちがうストーリーが知ることができる←話の前後のつながりを系図かく知ることによって理解を深めることができる。
- ・ たくさんの話を大事な部分など受け取る側に分かりやすいようにまとめることを大事？→なんでそれが大事？（しぼる）何を伝えたら沖縄戦を伝えたことになるのか。
- ・ 1人1人のちがう戦時のストーリーがある。
- ・ 教科書など一言でおわる。何が大事？
- ・ 実際その場に見学に行くこと。
- ・ きっかけづくり（1人1人のエピソードの伝える）
- ・ 体験者になる怖さなどを感じとってみること。
- ・ その人の社会の立場を考えてみる。←調べた（その人とその人の社会を見ることで大事なことが見える）←まわりへの影響

【第3弾】サッカー協会と部活動派遣費問題を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

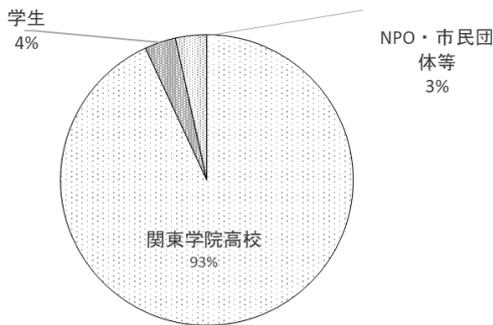
◆概要

- ・日時：2022年11月15日（火）13:00-15:40
- ・場所：八重瀬町中央公民館 大ホール
- ・着席者：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：36名 ※センターメンバー含む
（アンケート回収29名、回収81%）

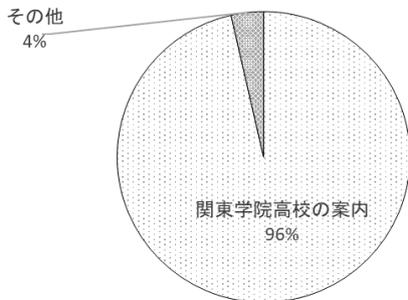
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.4（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
13名	13名	1名	1名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・自分の意見を発表することができて、しゃべらないぼくからするとめじらしかった。センターメンバーの貴重な話をきくことができた。
- ・知らないことを知り、考えを深める機会になった。また、1つの面からしか自分は物事を見れていないと感じ、大人の人たちのように多角的に物事を見ていきたいと思った。
- ・違う年代の人と、難しい話題を話し合えたから。
- ・様々な視点からのアプローチをうかがうことができたのでとても勉強になりました。伝承方法について自分できっかけになったので良かったと思います
- ・これからの人々と世界の平和のために話し合う人たちの議論やその体験ができてよかったです。
- ・生徒たちから斬新なオピニオンが聞けた。同じ課題で悩む人たちの話を聞いて良かった。
- ・楽しかったです。グループワークが楽しかった。
- ・ここ2日で自分の感じたことを話して意見を交換することができたから。ただ発表の時カツゼツが悪かったのとまとめられなかったのが心残りではある。
- ・沖縄戦をどのように伝えるか、それは、国のために戦った。そのおかげで今があるという国的なものではなく、死者すべての人にそれぞれの人生がある。そういう伝え方にしなければいけないと理解できた。

- ・ 今の自分の考えに加えて他人の意見を採り入れることによって自分の考えがより鮮明になる→自分の意見と他人の意見の相違点を探ることにより、考えが深まる事。そんな色々な目線の話を書いて物事を考えることが楽しかった。ありがとうございました。
- ・ 沖縄戦の伝承についての会議で今までになかった視点での戦争のとらえ方を出来たため。
- ・ 自分の意見を多く話せました。また、多くの人から意見を聞くこともできましたし、自分の意見も尊重してくれました。人に何かを伝えていくためにどのような表現をすればよいのかも参考になりました。
- ・ 大人の方々の議論の能力がとても高かったから。
- ・ 沖縄戦を研究している方達と、本気で話し合うことができ、あらゆる視点からのアイデアを知れてとても勉強になった。
- ・ 自分で絶対に思いつかない角度からの意見を知り、お互いに充実した議論をすることができたため。
- ・ 戦争に関しての深い話がきけた。
- ・ 沖縄戦の何を伝えるかなどを知ることができた。
- ・ グループのまとめを発表する際、グループの考えを全てまとめきれず、自分の言葉でまとめて伝えてしまったため、しっかりと話を聞いて、ないようを伝えなかった。
- ・ 沖縄戦の伝承に取り組む最前線に立つ方々の意見を聞くことができた。実際に、地域の方と一緒に話すことができた。

(4. 概ね満足)

- ・ 沖縄戦の伝承の伝え方が分かった。
- ・ まだまだモヤモヤしますが伝え手、伝承者の皆さんと話し、高校生とも語りあえた充実感があり
- ・ 初めて円卓会議というものに参加してみて、初対面の人の考えを得ることだけでなく、実際に議論を交わすことで自分の考えを発信してまたそれをより良いものになっていったからである。
- ・ 結論のような物を見出せた。
- ・ 最初の 1 時間半は結論睡魔との戦いであったが 10 グループでの話し合いの時間は有意義な話し合いが出来たのでそこは大いに評価しました。概ね満足。
- ・ 戦争を失くすために沖縄戦を通して後世に語り継いでいくべきこと、またこれ以上悲惨な現実をくりかえさないために何をすべきか聞き、また話し合うことができた。
- ・ 前回からの平和学習でガイドさんから話を伺っていたが、話す方が変わる度に違う側面から沖縄戦についての見識を広められたため。

(3. 普通)

- ・ 話が長かった。
- (2. あまり満足していない)
- ・ テーマについてあまり話し合えなかった。自分が気になっていたことを他の人と交換しあえなかった。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 人に沖縄戦を伝えるときにキーワードを関連づけて伝える。1日だけなどで戦争などでは人の選択肢をうばってしまう。
- ・ 「体験者と非体験者の共同作業」。伝えても学び変わりつづける。知識の量が全てではない。体験者と今とが重なりあう。体験者に当時どんな選択肢があったのか。
- ・ 映像で伝える。
- ・ 難しい言葉を使わない。証言映像を使用する。自分のどう日常の中に入れ込むか。壕の整備。
- ・ 議論の最中、個人個人がすごく的確な意見を持っていたことや、その情報をボードに板書していたりなど、今まで見てきた会議とは一味違ったのが印象に残りました。
- ・ 知識を比べないという言葉が響いた。

- ・ 生徒の中に 1 人の個人史を知ることが重要だと思っけどそのことを知るための場づくりをしてほしいというきもちをきけて、自身の課題にしたいと思った。
- ・ 担い手になったら下手なことは言えないという言葉と戦争中だけじゃなくて後のことも考えるべきという言葉が印象に残った。
- ・ もし今、沖縄戦のことで新しいことが分かった場合、その事と今分かっていることを伝えようとなった場合混ざって本当に戦争のことを伝えることが出来ないのではないか。本当に知ってほしいことって何？ということであらためて考えたい。
- ・ 「～について教えてください」という事が PTSD となるところから、戦争から生きる/死ぬではない。生き延びてしあわせとは限らない。そう考えると、犠牲者はもっと多かったのかもしれない。
- ・ 命のリレー、経験者と非経験者の共同作業というフレーズが印象的だった。
- ・ 平和学のことについて戦争は人々の選択肢を奪ってしまう。知れば知るほど知らないことがでてくる。証言中証言映像を出す難しい表現は使わない。
- ・ 時代の変化と共に考え方も変えていくべきということ。
- ・ 戦争は全国で起きたことを忘れず、自分たちが住むところで起きた戦争についても調べる。そして、伝えること。知識をインプットするだけでなく、アウトプットをしていく。それは合ってるまちがっているではない。気にしないこと。
- ・ 盲目的にならず常に思考する余力を持っておく
- ・ すべてのことにうたがいを持って生きる。つまり、過去の日本から見るに彼らは盲目的に天皇を信じていた。神だと思っていた。当時天皇が神ではないなどという疑問があったら少しはちがうかんが
- ・ 大東亜戦争当時の日本兵が天皇を崇拜していたように、何かを盲目的に信じ、その名のもとに歴史を繰り返すのではなく、すべてを疑いにかかって一歩立ち止まれ。
- ・ 何か一つのこと（今回なら沖縄戦）について伝える際、伝える方法が人によって異なるというのはよくあることだと思うが、今回話してくださった 5 人の方々は沖縄戦を伝えるに至ったいきさつも違っておもしろいと思いました。
- ・ 沖縄戦を伝える側の「先入観」が伝え方に影響してしまい、事実や感想が正しいものではなくなくなってしまうということ
- ・ 自分の身近なところから調べる
- ・ 私は今回の議論でグループ内での話し合いが印象に残っている。自分の意見を堂々と話すメンバーの話やその意見の考え方に共感する面も考えさせられる面もあり、自分自身の価値観を成長させられる良い機会になったなど感じた。自分の中の結論（案）としては、時代に合わせた変化はこれからも必要になっていく考え方と思う。
- ・ 沖縄戦という一つの出来事から、多くのテーマを見出すことができるという意見がとても印象的だった。
- ・ 全員の意見を一致させることが一番難しい。

(写真) 会場の様子



事前学習で勉強していた沖縄戦を
 実際に訪ね、資料館を訪ねる。
 戦軍の話や写真の解かるのは。
 感じるものが違った。
 ・今の議論の真剣に感じた。

軍人が戦争をしては(笑). 軍隊教育
 「戦争」という言葉が消えるとき返すのは? 宇宙に共通
 の敵がどこに地球はまとも
 悲しさか分からない、国にさせない、体
 験者が伝えること内情? する時間を増やす、戦争
 は必ずくり返さる
 当時の日本人は天皇の言うはれが通った。こ
 ことが強さをもたせた理由では? 今の日本人は思想
 がかわるといえる
 国民には止められない?

★ がマハ入って体感する場が
 伝わりものがある。

★ トウウマのイベントで石川さん
 さんから 知って多く 労力が必
 要

★ ガマ×資料館に入れた経験が
 他人に伝えてきた。

★ 外国人に伝えず難しいと聞
 伝えず相手理解不足 大
 主権を争うな

★ 沖縄戦経験者は少なくなつて
 後世に残す時、思惑に左右
 さないように。

★ 伝えず先入観を持つ
 大田さんらも理解持っていた
 重要。

★ TVで証言を伝えたこと
 虚、(ま) 恐ろしい
 直接、伝えずにさかかハズ

新たな方法を見つける

- 証言者の映像には質問できない ← 課題
- 若者の視点での疑問点を取り入れる

個人的に...

戦争というのは沖縄だけではない
全国で被害がある。まずは身近で起きたことを調べる。

戦争で苦しんだのは皆一緒なのに、死んだ仲間を見て、母親が自分の加害者意識

戦争はどことどこといって、その人の関係の伝承を体験する。

親しい... 日記
その分り

- 言葉が難しくなる
- 近代を学ぶ
- その沖縄戦は地獄の地
- 実際に何が起きたのか
- 沖縄戦 大抵ではないが自分の世代は

1人1人それぞれの伝え方、伝え方Xの5か11

受けとる側の気持ちも考える ← 受けとる側の気持ち

6人7人の話で結構いい感じ
5人6人7人8人9人10人11人12人13人14人15人16人17人18人19人20人21人22人23人24人25人26人27人28人29人30人31人32人33人34人35人36人37人38人39人40人41人42人43人44人45人46人47人48人49人50人51人52人53人54人55人56人57人58人59人60人61人62人63人64人65人66人67人68人69人70人71人72人73人74人75人76人77人78人79人80人81人82人83人84人85人86人87人88人89人90人91人92人93人94人95人96人97人98人99人100人

話の前後のつらさを伝えること
理解を深めることが大事

たくさん
話を大事に扱うこと

受けとる側にも伝わるように

伝えること重要? → 受けとる側が重要?
(受けとる)
何を伝えるのか? 何を伝えるのか? 何を伝えるのか?

1人1人の5か11の戦時のストーリー

資料集の5か11

1人1人の戦時

実際の場にはどうするか?

20か11の5か11 (12人13人14人15人16人17人18人19人20人21人22人23人24人25人26人27人28人29人30人31人32人33人34人35人36人37人38人39人40人41人42人43人44人45人46人47人48人49人50人51人52人53人54人55人56人57人58人59人60人61人62人63人64人65人66人67人68人69人70人71人72人73人74人75人76人77人78人79人80人81人82人83人84人85人86人87人88人89人90人91人92人93人94人95人96人97人98人99人100人)

体験者 (1人)

小規模な体験者 (1人)

本人の経験の立場を伝えること
伝承 (本人と本人の経験を見ること (本人の経験) (本人の経験)

- 映像製作の際、誰がターゲットとするか
- 次の世代に伝える。つなげる、という感動